

ベンドリーフ翼の混合特性と所要動力特性

(名エ大) 〇(学)小栗良高・(正)加藤禎人*・(正)古川陽輝・(正)多田豊(八光産業) (法)坂倉功一郎・(法)松野昌幸







邪魔板無しのとき

 $N_{\rm P0} = \{ [1.2\pi^4\beta^2] / [8d^3/(D^2H)] \} f$ $f = C_L / Re_G + C_t \{ [(C_t / Re_G) + Re_G]^{-1} + (f_{o} / C_t)^{1/m} \}^m$ $Re_{d} = nd^{2}\rho/\mu$ $Re_G = \{ [\pi \eta \ln(D/d)]/(4d/\beta D) \} Re_d$ $C_{\rm L} = 0.215 \eta n_{\rm p} (d/H) [1 - (d/D)^2] + 1.83 (b/H) (n_{\rm p}/2)^{1/3}$ $C_{t} = [(3X^{2.5})^{-7.8} + (0.25)^{-7.8}]^{-1/7.8}$ $m = [(0.81X^{0.373})^{-7.8} + (0.333)^{-7.8}]^{-1/7.8}$ $C_{\rm tr} = 150(d/D)^{-3.24}(b/D)^{-1.18}X^{-0.74}$ $f_{\infty} = 0.0151(d/D) C_{\rm t}^{0.308}$ $X = \gamma n_{\rm p}^{0.7} b/H$ $\beta = 2\ln(D/d)/[(D/d)-(d/D)]$ $\gamma = [\eta \ln(D/d)/(\beta D/d)^5]^{1/3}$

0.10611)/(0.52r4 / 1/m)/27



H/D=1.3,60s後の2次元断面流脈パターン

0.29 0.57 H/D=1.3 1.0 液深さの影響 Re=104,30s後の3次元流脈パターン

混合パターンの可視化

遷移域

Re=









完全乱流域







$\eta=0.711\{0.157+[n_p \ln(D/d)]^{0.611}\}/\{n_p^{0.52}[1-(d/D)^2]\}$ 任意の邪魔板条件のとき $N_p=[(1+x^{-3})^{-1/3}]N_{Pmax}$ $x=4.5(B/D)n_B^{0.8}/N_{Pmax}^{0.2}+N_{P0}/N_{Pmax}$	不確認定的	新 廃 板 2 枚	新魔板2枚 邪魔板4枚
完全邪魔板条件のとき N _{Pmax} = 3.9	<i>Re</i> =66, <i>Nt</i> =300の混合パターン	Re=201,Nt=300の混合パターン	<i>Re</i> =46400, <i>Nt</i> =10 の混合パターン



・ベンドリーフの撹拌所要動力の相関式を示した。

・ベンドリーフは、他の大型翼と異なり、液面が種々変化しても、混合性能に影響がない。

・ベンドリーフは、50<Re<200では、邪魔板条件は4枚よりも1、2枚が良好であった。 また、邪魔板なしの場合は、Re>50において、良好な液混合を達成することができた。